

令和3年度第3回 川崎市上下水道事業経営審議委員会会議録

1 開催日時

令和4年1月17日（月）15：30～17：05

2 開催場所

川崎市川崎区宮本町1番地

川崎市役所第3庁舎18階大会議室

※オンライン（Zoom）での出席も可

3 議 題

- (1) 川崎市上下水道事業中期計画（2022～2025）（案）について
- (2) 工業用水道事業の今後の取組について

4 出席者

- (1) 委員会委員（敬語略）

長岡裕（委員長）、齋藤利晃（副委員長）、磯貝和敏、鎌田素之、中野英夫、西川雅史、見山謙一郎、伊藤喜美子*、浦野敏行*、高橋慶子、舘克則、渡部さと子

*オンライン出席者

- (2) 上下水道局職員

上下水道事業管理者、担当理事、経営戦略・危機管理室長、総務部長、財務担当部長*、サービス推進部長、水道部長、水管理センター所長*、下水道施設担当部長*、経営戦略・危機管理室担当課長、庶務課長*、サービス推進課長*、水道計画課長、下水道計画課長

*オンライン出席者

5 傍聴者数

1名

6 会議内容

以下のとおり

事 務 局 それでは、定刻になりましたので令和3年度第3回川崎市上下水道事業経営審議委員会を開催させていただきます。私は事務局を務めさせていただきます

ます、経営戦略・危機管理室の筒井と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の会議ですが「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定に基づき、公開とさせていただきますので、御了承お願いいたします。

また、会議終了後に議事録を作成しますが、こちらも原則公開となっておりますので、事務局で作成後、各委員に内容を確認いただいたのち、確定させてまいりたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

なお、本日は傍聴の申し出がございますので、傍聴人の入室を認めてよいでしょうか。

それでは、傍聴人の方に入室していただきます。

本日の会議におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場に御出席の委員の皆様におかれましては、常にマスクを着用していただきますようお願いいたします。

お手数かと存じますが御発言の際にはその都度、アルコール消毒済みのマイクをお渡ししますので、マイクをお使いいただきますようお願いいたします。

また、本日の会議につきましては、事前に御案内したとおり、オンラインと併せての開催となっております。局側につきましても、第2庁舎会議室からのオンライン出席と合わせての出席となっております。進行に至らぬ点があるかとは思いますが、御容赦いただきますと幸いです。

オンラインで御出席の皆様、音声は聞こえていますでしょうか。御説明の際に、資料につきましては画面を共有させていただきますが、事前に送付した資料につきましても、必要に応じて確認いただければと思います。また、ネットワーク負荷低減のため、事務局からの御説明の時間につきましては、ビデオを停止しマイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。

なお、御発言の際はビデオを開始し、挙手又は御発声をお願いいたします。その後、委員長から指名いたしますので、お名前をおっしゃってから御発言をお願いいたします。

続いて、会場にいらっしゃる委員の皆様の資料については、皆様のお手元にございますタブレットで閲覧をしていただきます。これからタブレットの操作方法について御説明いたします。

(～タブレットの操作方法について説明～)

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、大澤上下水道事業管理者から御挨拶を申し上げます。

上下水道事業管理者 改めまして、上下水道事業管理者の大澤でございます。

本日は大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。
す。

年明け早々の日程になりましたが、残念ながら、新型コロナウイルス感染症が第6波と言われ、急拡大しておりまして、そうした中で開催となりました。先程事務局から説明がありましたとおり、前回に引き続き新型コロナウイルス感染症に配慮した上で対面の人数を減らすために、オンラインでの併用開催ということと、職員の人数も若干減らして、別室でのオンライン参加ということで御承知いただければと思います。

本日は2つ議題を用意しておりまして、1つ目は次期の上下水道事業中期計画の策定に向けて、これまで委員の皆様から多角的な観点から御意見をいただき、素案として取りまとめたところございまして、昨年の11月から12月にかけてパブリックコメント手続を実施し、市民の皆様から幅広く様々な御意見をいただいたところでございます。本日はそのパブリックコメント手続の結果と、いただいた御意見などを踏まえて取りまとめた次期の中期計画の案の説明をさせていただきます、改めて専門的かつ多角的な観点から御指摘、御意見を頂戴できればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

また、2つ目の議題では「工業用水道事業の今後の取組について」ということで工業用水道事業について、施設の老朽化等が進んでおりまして、今後は大規模な施設更新、耐震化等を行っていく中で様々な課題もございまして、現状等を御説明させていただきながら、委員の皆様から忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。

限られた時間ではございますが、貴重な御意見を賜れたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 それでは続きまして、長岡委員長から一言御挨拶をいただければと存じます。

長岡委員長 委員長を務めております長岡です。

本日は議題が2つあるということで、次期の中期計画につきましては、本日最後の審議ということですが、委員の皆様におかれましてはお気づきの点が多々あると思っておりますので、遠慮なく御発言いただきたいと思います。そうする

ことで最終的に良い計画になっていくと思いますので、積極的な御発言をお願いしたいと思います。

工業用水道事業につきましては、市民の方に直接触れ合うことはない事業ですが、産業の血液と言ってもいいようなもので、特に川崎市では工業が非常に盛んで、工業用水道がないと工業が成り立たなくなるということで、社会インフラとして非常に重要な施設です。これについても今回議題になるということです。工業用水道については、よく分からないことがあると思いますが、そういう場合も遠慮なくこういう点が分からないと御発言いただければと思います。特に、水道との違いについて分かりにくいところがありますので、是非、疑問点があれば御発言いただきたいと思っております。本日も活発な委員会になるよう、よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

それでは、要綱によりまして、委員長が議長となりますので、ここからの会議の進行につきましては委員長、よろしくお願いいたします。

長岡委員長 それでは、本日の議題に入らせていただきます。

議題1「川崎市上下水道事業中期計画（2022~2025）（案）について」説明をお願いいたします。

経営戦略・危機管理室担当課長 それでは議題1について、御説明を申し上げます。

議題1「川崎市上下水道事業中期計画（2022~2025）（案）について」説明

長岡委員長 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明について、御意見、御質問等あればお願いいたします。

まず、オンラインでの参加者につきまして、御発言しにくいかもしれませんので、もし御意見等あればお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、会場の委員の方、御質問があればお願いいたします。

館委員 資料の14ページですが、国際展開活動の件数について、「指標なし」から年間100件という指標を具体的に示すという変更をされていますが、これまでも国際活動を行っている中で年間どれぐらいの活動だったのか、また、それと合わせて年間100件というのは誰でも閲覧することができるのか教えてください。

経営戦略・危機管理室長

ただいま御質問にありました件数ですが、100件のうち、国際展開で言いますと「かわさき水ビジネスネットワーク」というものがありまして、これの1番メインの活動が、毎年1回開催しております総会でございます。それから、かわBizネット会員の方との幹事会を年間2回行っています。そういった会議の他にセミナーの開催が年に数回ございます。この100件のうち、約8割が会員企業の皆様にメール等で情報発信することで占めております。それらを含めて概ね100件という状況でございます。この件数につきましては、年度によって若干増減はありますが、概ね毎年100件程度で推移しています。具体的な中身につきましては、かわBizの会員企業にはホームページがございまして、そちらで内容について公開しておりますが、一般の方につきましては、今のところは公表しておりません。

長岡委員長

ほかにいかかでしょうか。

西川委員

1つ目は資料の35ページですが、市民からいただいた御意見のNO. 13について、「5年以内に配水管の耐震化を完成させるという目標だと、どれくらいの予算が必要か。」と金額を聞かれています。右側の回答だと少し不適切で、私が市民だったら回答していないように感じ、少し不親切だと思いました。

2つ目に生田浄水場に関する御意見が少し多く感じました。それで質問の趣旨を私なりに咀嚼してみると、生田浄水場をなぜ廃止したのか、明確な理由が書かれておらず、生田浄水場を廃止してしまったからそれを復活させるつもりはございませんというのが回答だと思っております。ダウンサイジングが理由として一つあるのかもしれませんが、こういう理由で生田浄水場は廃止しているというのがどこかに明記されていないと、また同様の質問が出てくると思いました。少なくとも、この場に参加させてもらっている者として、納得できるような説明がされるのかを聞いておきたいと思いました。つまり、なぜ生田浄水場を廃止して、他の浄水場を選ぶ必要があったのかを市民側の目線から聞きたいという質問になります。

水道計画課長

まず、NO. 13についてですが、5年間に全ての配水管の耐震化を終わらせて欲しいということで、現在36.7%程度の管路について耐震化が終了しています。残りの管路全てを5年間で終了させるための金額がどれくらいなのか、出そうと思えば出せるのですが、現実的ではないので現在60年サイクルで耐震化を進めているという形で回答を考えております。これは更新率で言うと1.67%ということで、大都市の中でも上位の更新率になってござい

ます。それを少し説明させていただいて、それを行ったとしても、まだまだ40年程度かかるということを中心に説明させていただいたところです。

西川委員 耐用年数などの問題はありますし、徐々に更新していくということは理解できるのですが、金額を聞かれているのであれば、金額は答えてあげないと失礼な回答なのではないかと個人的には思います。

長岡委員長 要は、40年かかるのだったら、毎年どれくらいの投資をして40年かかるなどと答えてあげるということですね。

水道計画課長 理解いたしました。こちらの方で検討いたします。

2つ目の生田浄水場の廃止につきましては、現在のビジョン・中期計画でこれまで説明してきたところをごさいます、平成18年に川崎市の再構築計画を策定し、生田浄水場、潮見台浄水場、長沢浄水場の3つの浄水場に企業団の西長沢浄水場を合わせた4つの浄水場を集約し、本市の生田浄水場と潮見台浄水場を廃止し、長沢浄水場を増強すると、企業団の西長沢浄水場の2つの浄水場で市内に給水をしていこうという形で平成27年度に完了したところをごさいます。生田浄水場につきましては、地下水源で浅井戸になっていて、少し水質に不安があったり、地下水を汲み上げて更に配水池に上げるということでエネルギーの効率の観点等がございました。また、潮見台浄水場につきましても、施設や導水路の二重化等を総合的に勘案して、長沢浄水場を増強していこうと決めて約10年間かけて再構築事業を完了させたところをごさいます。こうした経緯ですが、なかなか御理解をいただけないところをごさいますので、今回も質問ごとに分けさせていただいて、説明できるところは焦点を絞って説明させていただいているというのが現状をごさいます。

西川委員 ありがとうございます。今いただいた説明について、汲み上げるコストがかかっていることや水質も不安な面があるといった説明を具体的にいただいて理解が進みました。しかし、私が見た限り、資料の中ではこういった説明が見当たらなかったものですから、もし記載がないのであれば、具体的にこういう欠点があったから廃止をしたといったことを記載すると、素人目線でも納得できる場所があるのではないかと思います。

水道計画課長 そういった視点が入っているかどうか、もう一度見直したいと思います。

長岡委員長 今、仰っていただいたことを説明すれば納得できると思いますので、具体

的な説明を記載いただければと思います。

ほかにいかかでしょうか。

渡部委員 前回の委員会でお伺いすべきでしたが、資料の10ページについて、具体的に年次計画を年割で示したということですが「重要な管路」と「優先耐震化管路」の違いはどういうことなのでしょう。また、「重要な管路」については令和4年度に実施し、それが終わり次第「優先耐震化管路」が「重要な管路」として耐震化していくと捉えてよろしいのでしょうか。

水道計画課長 今、御質問いただいたところにつきましては、次期中期計画案本編の48ページに現状ということで記載しておりまして、管路延長が2,500kmと膨大になっておりますので、管路を耐震化するにはかなり時間を要してまいります。そういった中で、現在は地域防災計画に定める避難所のうち、市立中学校や重要な医療機関に加えて、市立小学校・高校等への供給ルートや老朽配水管を「重要な管路」と位置付けて、令和4年度までに耐震化を終わらせるということで現在進めております。この「重要な管路」につきましては、令和2年度末時点で93.1%が終了しているところでございます。次に、「優先耐震化管路」との違いについてですが、「重要な管路」の耐震化が令和4年度に終了しますので、令和5年度からはどこを優先的に耐震化していくのか、選定作業を現在行っております。今後は49ページ中ほどの「優先して耐震化を進める管路の考え方」の2行目に記載のとおり、対象管路の耐震化が完了した後も、緊急輸送道路に埋設されている管路や消防署や警察署などの防災計画で災害時にも給水の継続が必要な施設などの供給ルートを中心に耐震化を優先して次年度以降進めていこうということで検討しているところでございます。

長岡委員長 「優先耐震化管路」というのは「重要な管路」以外で優先的に耐震化すべき管路ということだと思います。この資料だけ見ると「重要な管路」と「優先耐震化管路」はイコールと読み取れて、記載の仕方が分かりづらいと思います。

水道部長 先程、水道計画課長が説明したように、どこの管路を優先して耐震化していくかという考え方でずっと進めてきています。その優先する管路をこれまでは「重要な管路」と位置付けて、避難所や学校、病院等を優先して耐震化を進めており、令和4年度に終了します。それが終わると次に「重要な管路」は何にしようかということ、今まさに決めているところでして、警察

署や学校、幹線道路に埋まっている管路を次の「重要な管路」に位置付けて、進めていこうということです。

長岡委員長 それがこの図だけでは読み取れないということだと思います。

水道部長 分かりやすいよう、工夫してまいります。

長岡委員長 ほかにいかがでしょうか。

齋藤副委員長 資料の76ページで「自助・共助」についての意見がありまして、御説明も内容ももっともなので、特に大きな問題ではないのですが、もし、本体のどこかを見て勘違いをしてこういう意見が出ているのであれば、本体の文章をもう少し説明するように工夫した方が良いと思いました。

長岡委員長 文章の意味がわからないということについては、受け取る方の責任と記者の責任と両方あると思いますが、少し検討していただければと思います。

それでは、続きまして議題2「工業用水道事業の今後の取組について」説明をお願いいたします。

経営戦略・危機管理室担当課長 それでは議題2について、御説明を申し上げます。

議題2「工業用水道事業の今後の取組について」説明

長岡委員長 ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について、御意見、御質問等あればお願いいたします。

中野委員 知識として教えていただきたいのですが、川崎市の工業用水道の料金というのは他の自治体と比べてどれぐらいなのでしょう。

経営戦略・危機管理室担当課長 なかなか難しいところですが、川崎市は他事業体と比べて高いというところはあるかと思います。工業用水道については、水質にあまり基準がないということで目標値になってございますので、例えば池や沼から水が取れるなど、水源が近いと施設がコンパクトになりますので、安くできる傾向がございます。川崎市につきましては、水源が多摩川と井戸と相模湖とございまして、少し相模湖が遠いということがございますので、比較的料金としては高めになっております。

長岡委員長　ほかにいかがでしょうか。

鎌田委員　14ページと6ページでお示しいただいているのですが、印象からすると会社数が70社程度から50数社に減って、55万立方メートルから40万立方メートルになって、結構減ったなというイメージがあります。ここでお示ししているのは大口の企業だと思いますが、大きな企業が撤退するというのは、ここ何年で、どの規模で起こっていることなのでしょう。5番目のE社でも数%を占めている中で、大きな企業が抜けているのか、それとも小さな企業が散発的に抜けているのかで状況が変わってくると思いますので、現状を教えていただければと思います。

経営戦略・危機管理室担当課長　再構築計画を平成18年に策定しており、その時の見込みで契約水量52万立方メートルございまして、現状も契約水量52万立方メートルです。で、大きな変化はなくこれまでは推移しているところでございます。

鎌田委員　ただ、実際の配水量は大分減っていて、契約水量との乖離が企業側としては何とかしたいというところで、トータルコストを考えると移転される企業が全国各地で増えていると思います。現状はまだ大丈夫だと思いますが、今後はそれなりの規模の会社が撤退するとすると、他にも同じようなことが起こりえると思いましたので状況を確認したいと思っております。

経営戦略・危機管理室担当課長　資料14ページの「契約水量等の推移と今後の予測」でお示ししておりますが、契約水量については先程申し上げましたとおり横ばいですが、使用水量については企業側の回収水の利用などの節水意識の向上や、設備機器の性能の向上もあるかと思いますが、事業者が撤退したというよりも使用量が減っているというのが現状でございます。今後につきましてはこのグラフの中でお示ししておりますが、利用者の方に2回調査を実施して、規模を縮小する利用者もおり、39万立方メートル程度に落ちるのではないかと利用者からいただいているところでございます。

長岡委員長　ほかはいかがでしょうか。

館委員　私たち連合傘下の会社もお世話になっている中で、ある組合から先程、質問があったような単価が高いのではないかというような意見を伺っているところでございます。7ページに契約水量が52万立方メートルで基本料金が

34. 4円というような表があったと思いますが、今後、アンケート結果の内容を踏まえ、仮に39万立方メートルに落ちるということなら単純計算で75%の規模になると思います。すると基本料金も75%の額で概ね見込んでよいのでしょうか。今後検討していくことだと思いますが、企業側として期待しているところがございます。

また、新プランというのはいつスタートなのでしょう。御説明の中では5年後というワードが出てきたので、5年後ということで考えてよいのか教えていただければと思います。

経営戦略・危機管理室担当課長

料金につきましては、先程、7ページで少し説明させていただいたとおり、建設投下資金を料金で回収する必要があるということがございます。工業用水道については、高度経済成長期に多くの工場が建設され、水が足りないということで水源を求めて、現在相模湖まで利用しているという経過がございます。一度開発した水量をいらなくなったから離すというのは、なかなかできないところがございます。そこは開発者の責任もございますので、料金については色々と慎重な判断が必要だと思っております。我々としても利用者に納得していただけるような料金制度や更新計画を立てていく必要があると思っておりますので、今後経営審議委員会に諮問をさせていただきながら、利用者にも丁寧に説明をして進めていきたいと考えております。また、開始時期につきましては難しいところがございます。現段階では申し上げられませんが、更新計画を立てながら、料金制度の検討等を進めていく関係がございますので、いつから開始するののかも含めて検討していかなければならないと考えております。

館 委 員 色々と検討材料がたくさんあるかと思いますが、企業側としては長期計画的なことが見込めるのだったら見込みたいところですので、是非、一緒に早めに作っていただけるとと思います。

長岡委員長 是非、ユーザーとの対話が重要になりますので、丁寧に進めていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

見山委員 毎回参加させていただき、非常に勉強になっております。ありがとうございます。先程のパブリックコメントの話もそうですが、今後、人口の減少という中でどのように持続可能な経営をしていくかという話や、災害に対する対応などが大きくなっていると思います。国についても同じことが言え、例

えば人口減少社会に対して地域をどうやってつくっていくのかは総務省になりますし、環境省の中央環境審議会の循環型社会部会では、災害廃棄物の問題など、災害対応の話が出てきます。要するに社会課題というのが、自治体の経営自体に対して大きな課題になっていると思います。工業用水道の課題についても先程委員長からお話がありましたが、技術の進化やSDGsという流れの中で水を使わないという方向に舵を切っていく企業が増えていくと思います。SDGsの良い方の文脈で水を使わないという話は自然の流れです。それに対して抗うのではなく、どう受け入れていくか、今までとは全く違う形の経営スタイルを確立していく時期にきていると思います。私は経営学の専門ですが、経営の世界だとSDGsとDXがキーワードになっており、その先に何があるのかというと、合理化・効率化ではなくサステナビリティということです。ですから、SDGsの文脈の中でもっと考えたり、実態把握等をDXの技術を使っていくと何ができるのか、あるいは企業との連携も含めて一緒に課題を解決していく「協働」など、今までと異なる、対峙するよりも対話をしながら一緒に解決策を考えていくことを進めていくのが良いのではないかと感じました。

もう一点、今日のお話は皆さんからすると暗い話になってしまい、どちらかという守りに特化されているという印象をすごく感じたのですが、もう少し攻めに転じて良いのではないかと思います。攻めに転じる方が気持ちも前向きになると思います。例えば、今後契約者数が減るという前提であれば、どうしたら新しい契約者を呼び込めるのか、企業誘致を含めて何か仕組みを考えていくというアプローチもあるかもしれないですし、今後お金が必要なときに新しい金融スキームを組み込むことによって外部の投資家たちも巻き込んで施設を一緒に作っていくといった新しい枠組みの中で物事を考えても良いと思います。もう少し攻めという視点から、皆さんがワクワクするようなことを皆さんと一緒に経営審議委員会の中で議論をさせていただくと、前向きな気持ちで取り組むことができるのかなと思いますので、是非御検討いただければと思います。

経営戦略・危機管理室担当課長

我々としてもSDGsや環境に配慮した環境負荷の少ないということを考えながら工業用水道事業を進めていかなければいけないと考えておりますので、今後とも御議論のほどよろしく願いいたします。

長岡委員長

工業用水道に関する議論は全国的にも暗くなりがちというところがありますので、非常に参考になりました。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

磯貝委員 京浜工業地帯は横浜市の鶴見区も含まれていると思いますが、それが一つにならないのかなと思うところがあります。鉄鋼業で操業が落ちてきたところは炉を統合しているのと同様に、工業用水道も川崎市の工業用水道、横浜市の工業用水道が1つとしてできるようにならないのかなと思います。特に先程説明があったように、相模湖の上の方は水道企業団が行い、下の方では違う事業者が行っているということで、下の方も同じでいいのではないかと、一緒にジョイントベンチャーとして物事を進めていって、全体のキャパシティに上手く合えば良いのではないかと思いつきですが感じたところです。

長岡委員長 おそらく工業用水道の広域化みたいなお話だと思いますが、これは全国的にもやらなければいけないということが大きいと思います。具体的には、川崎市と横浜市の工業用水道を整理したらもっと効率的になるのではないかと、今すぐやりますということは言えないと思うのですが、私自身もそういう選択肢はあるかなと思っています。そういったところも少し頭の片隅に入れておくと良いのかなと思います。

経営戦略・危機管理室担当課長 やはり工業用水道はこれまでの手法だけにこだわっていくのは難しいという状況に全国的になっているということは承知しておりますので、様々な御意見を踏まえながら、色々な案を検討しながら進めさせていただければと思っております。

長岡委員長 ほかにいかがでしょうか。

渡部委員 生田浄水場の工業用水道の水源というのは地下水なのでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長 地下水と多摩川の表流水です。

渡部委員 その地下水はやはりポンプで汲み上げているのですか。

経営戦略・危機管理室担当課長 そのとおりでございます。

渡部委員 先程、上水道に関しては生田浄水場を廃止した理由として、水質の不安と地下水を汲み上げるためにエネルギーを使うという御説明をいただいたのですが、工業用水道に使うエネルギーの量と上水道に使うエネルギーの量は、上水道の方を廃止した方がエネルギーの量が少なくてすむから上水道が

廃止になっているのでしょうか。エネルギーの量が同じくらいだったら、先程の説明だと市民への説明として適していないと感じましたので教えていただけますでしょうか。

水道部長　少し質問の趣旨の回答とずれてしまうかもしれませんが、水道事業については、実際に使用されている水の量が1日に約50万立方メートルで、施設的能力は約100万立方メートルと倍の施設を保有していました。使用している水に対して施設が過大で、余計な費用が掛かっているのがダウンサイジングをしましょうということで、どこの浄水場を廃止しようか検討したときに生田浄水場を廃止しようかと決定したのが水道事業です。工業用水道事業は、企業との契約が約51万立方メートルありまして、施設的能力が52万立方メートルしかないのが現状でございます。よって、今の契約水量を維持するには、工業用水道の施設を廃止することはできない状況です。そのため、工業用水道については生田浄水場がそのまま残っているということになります。先程御説明しましたとおり、今後の水需要予測をした際に、企業側から39万立方メートルぐらいしか使用しないと回答をいただいておりますので、今後、工業用水道施設をダウンサイジングする際に、生田浄水場を縮小するのか、長沢浄水場を縮小するのか、また、上水から水を買っている水源もあるので、それを廃止するのかというところで、様々なシミュレーションしてどこを縮小するのかを来年度以降検討していく必要があると思っております。その際に色々なシミュレーションを基に出した我々の答えについて、委員の皆さまから様々な意見を頂戴できたらと考えております。

渡部委員　先程、西川委員から市民への説明として生田浄水場を廃止したのはなぜかというところが分からないからそのような質問がきているとの指摘があり、その際にポンプで水を汲み上げるときにエネルギーを使っていることが一つの理由との説明があったと思うのですが、工業用水は使っているのではないかと単純に思ってしまうので、その辺の説明の仕方をもう少し配慮いただければと思います。

長岡委員長　説明についてお願いできればと思います。

まだ、御質問等あるかと思いますが、時間の都合がございますので、議題としては以上といたします。その他として、委員の皆様から何かあればお願いいたします。

高橋委員　現在、市立小中学校で直結給水方式の導入をしているということで、いた

だいた資料の中に記載があり、令和2年度ですと実績の記載がありますが、令和3年度までに市内小中学校の直結給水化が全て終わっているのでしょうか。

水道部長 直接蛇口から水を飲む文化ということで、受水槽を介さないで直結して給水する取組を進めているのですが、この事業は教育委員会と共同で行っている事業になっておりまして、教育委員会が学校を建て替える際や、学校を修繕する際に、上下水道局がお金を負担して直結化を行ってもらおうということで進めている事業です。どちらかという教育委員会が主体となっている事業ですので、上下水道局が次に直結給水化を行う学校を決めている訳ではないので、学校全体の直結化というかなり年月を要する事業になろうかと思えます。

高橋委員 その前のページで、マンションなどの上のタンクや受水槽をなくして直結にすることで、土地の有効利用につながるということで触れていたのですが。

水道部長 学校は公共施設ですので、同じ川崎市として一緒になって行っているのですが、一般の御家庭やマンションに受水槽を設けてそこからポンプアップしてマンションの各家庭に配る部分は所有者の資産、施設になりますので、その改造に関する費用については所有者の方が自費で改造していただくことになります。

長岡委員長 上下水道局としても直結給水を奨励しているのでしょうか。

水道部長 直結化は勧めておりまして、配水管の水圧がないと上まで水が上がりませんので、直結給水できるための水圧の確保ということで、我々としてはある程度の水圧をキープしたまま、配水管に流すようにしております。

高橋委員 先程お話のあった、小中学校等の管路の耐震化を優先的に進めているという取組とは、また別の角度からということでしょうか。

水道計画課長 先程御説明した件につきましては、小中学校が避難所になるということで、宅地内の給水管の話ではなく、我々が道路に敷設する少し大きな本管の耐震化を進めていくというような事業になります。今お話ししました直結給水化は宅地内の話で、供給ルートの耐震化は道路に埋められている大きな管

路を耐震管にしていくというような事業になりますので、棲み分けをして行っているということでございます。

高橋委員 現在、水道施設の耐震化ということで説明が記載されていますけれど、千代ヶ丘の配水管が私の町会のすぐそばにありまして、これが令和6年度に完了予定ということです。大きなタンクが2つに分かれて、一番嬉しかったのが、災害の際に6、7ヶ所の蛇口からすぐに給水できるということで、本当に地域の皆様も喜んでおりますのでありがとうございます。

水道部長 お褒めの言葉ありがとうございます。今仰ったお話は千代ヶ丘配水塔のことだと思いますが、配水塔という水を貯める大きなタンクがございまして、現在その耐震化をしております。それに合わせて、災害時にはタンクに溜まった水が蛇口を捻れば使えるという災害対策を行っております。地域の皆様が災害時に家で水が出なくなった際に、千代ヶ丘配水塔のタンクに行けば確実に水が供給できますので、是非、有事の際には御利用いただければと思います。

高橋委員 楽しみにしております。防災倉庫だと利用するために、下に下りていかないと蛇口がありませんのでリアカーを用意していたのですが、すぐに行けるということでありありがとうございます。

長岡委員長 ほかにいかかでしょうか。

西川委員 議事録に残したいのでお話しさせていただきます。小学校で蛇口から直接水を飲むのは素晴らしいと思っております、直結給水化を進めていくことは私が市民だったら応援したいプロジェクトです。しかし、今の御説明ですと教育委員会が動かなかつたら動けませんということで、率直な事実だと思いますが、そのやり方ですと結果的に動かないと思います。素敵なプロジェクトだと思いますので、ここは思いきって進めていきますというのを上下水道局側から声をいただくことは市民にとって大事なことだと思いますので、不躰かもしれませんが議事録に残しておくことはとても有益な気がしますので御回答いただきたいと思います。

水道計画課長 委員の仰るとおり、それについては課題ということで認識しております、教育委員会とは何度も調整を行っております。御指摘のとおり、なかなか進まない部分もあるのですが、次期中期計画期間では教育委員会の方も

少しずつ進めていこうということで聞いております。引き続き、全部で 166 校あります市立小中学校を直結給水化できるように、補助金を出すという形にはなりますが、アドバイス等も行いながら取組を進めていければと思っております。

長岡委員長 是非、お願いします。
ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、事務局にお返しいたします。

事務局 長岡委員長ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。Web で参加の方も何か御意見ありますでしょうか。

伊藤委員 勉強させていただいております。ありがとうございました。

事務局 委員会につきましては、今年度は本日が最後の開催となっております。来年度につきましては、現在の中期計画の結果報告や本日議題にございました工業用水道の料金制度の在り方や施設更新の考え方につきまして、改めて本委員会で御意見を求めるということを予定しておりますので、よろしく願いいたします。次回につきましては、4月の開催を予定しています。後日、日程調整をさせていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
本日はお忙しい中ありがとうございました。これで閉会とさせていただきます。